

百年以上も歴史を見つめ続けてきた

山鼻地区の老木

「歴史の散歩道」には、読者の方から情報が寄せられることもあります。ここで紹介する老木の話もその一つです。

平成七年四月、山鼻地区にお住まいの大川武夫さんから一通のお手紙をいただきました。

「百十年くらい前に植えられたアンズの木と百年くらいたった西洋クルミの木がありますので、一度見に来てください」

そこで、大川さんのお宅にお伺いし、それらの木々と、昔の山鼻の話をお聞きしました。

話はまず、明治七年（一八七四年）にさかのぼります。大川さんのお父さんの末吉さんが三歳のとき、お兄さんの熊太郎さんたちと一緒に青森県からやって来ました。その後、熊太郎さんは屯田兵となり、みんなで山鼻屯田兵村に住み始めたそうです。

やがて、末吉さんは結婚し、熊太郎さんの土地の一部に家を建てました。その時、結婚の記念に植え

たのが、今も庭にあるアンズの木です。樹齢は今、百二十年くらい。大きくなりすぎて枝を切ってしまったそうですが、毎年春には見事な花が咲き誇り、夏にはたくさんの実をつけます。

アンズのほかにも樹齢が百年くらいと思われる西洋クルミの木と、カリンズ（正式名称・アカスグリ）の木が残されています。西洋クルミの木は、髪結いさんが日本髪を結ってくれるときに使っていたクルミの実を大川さんのお母さんが植えて、それが大きくなったらしいという話でした。カリンズの木は、いつのまにか生えていたと話していました。クルミもカリンズも、アンズと同じように毎年実をつけているということです。

これらの木は、大川さんが生まれる前からの山鼻の住人です。大川さんに子どものころの話聞いてみると、昔は家が少なかったたので冬は吹雪で大変だったことや、大正二年に大水害に襲われて橋が流されてしまったこと、大川さんが結婚したころ、この辺りはリンゴ畑だったことなど、いろいろなことを話してくれました。今は、すっかり住宅街になっていますが、そのような辺りの景色の移り変わりを、

木々は見つめ続けてきたのです。

山鼻屯田兵村だったころから歴史を見守っていた木々。大川さんは「これからも山鼻屯田の遺産として残していきたいと思えます」と話していました(平

成七年当時)。

(平成七年六月号・第二十二回)



樹齢110年ころのアンズの木 (平成7年撮影)